

古文「連体形止め」識別 100題ドリル

対象：高校生・大学受験生 | 著作権：誰でも古典塾 (kotennosensei.com) 無断転載禁止

はじめに

文末が連体形で終わるのには、二つの理由があります。一つは**係り結び**（文中の「ぞ・なむ・や・か」が文末を連体形にする）、もう一つは**余情・詠嘆の連体形止め**（係助詞がないのに連体形で言いさし、「～よ・～なあ」という余韻を残す）です。さらに、そもそも**終止形でふつうに言い切っている**だけのものも混ざります。

この三つを、傍線部（文末の語）を見て分類しましょう。

記号	タイプ	見分けの軸
ア	係り結びの連体形	文中に「 ぞ・なむ・や・か 」あり → 文末は必ず連体形
イ	余情・詠嘆の連体形止め	係助詞なし + 連体形 で言いさす（～ことよ、の余韻）
ウ	連体形止めではない	係助詞なし + 終止形 でふつうに言い切る

鉄則 - まず「**ぞ・なむ・や・か**」を探す。あれば必ず連体形で結ぶ＝ア（係り結び）。 - **係助詞がなければ、文末語の形を見る**。連体形（ける・なる・める・見ゆる…）ならイ、終止形（けり・なり・めり・見ゆ…）ならウ。 - **終止形と連体形の形の違いがカギ**。「けり／ける」「なり／なる」「見ゆ／見ゆる」のように、形が違う語で練習すれば確実。四段（咲く＝咲く）は同形なので、係助詞の有無で決める。 - 「こそ」は**已然形で結ぶ**ので、連体形止めとは別物。ここでは出てきません。

🎯 解き方のコツ

- 文中に「**ぞ・なむ・や・か**」があるか確認。→あれば**ア**。
- なければ、**文末語が連体形か終止形か**を見る。「ける・なる・める・たる・見ゆる・落つる」などは連体形、「けり・なり・めり・たり・見ゆ・落つ」などは終止形。
- 連体形で言いさしていればイ**（余情・詠嘆）。「～ことよ」「～なあ」と余韻を補って訳す。
- 終止形で言い切っていればウ**。ふつうの文末で、連体形止めではない。

採点表

部	問題	目標
第1部 基礎	Q1～Q20	18／20
第2部 標準	Q21～Q50	24／30
第3部 応用	Q51～Q80	21／30
第4部 入試	Q81～Q100	13／20

【第1部】基礎 (Q1～Q20)

Q1. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

鐘の音ぞ**聞こゆる**。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「聞こゆる」で結ぶ。係り結び。

Q2. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

夜ふけて鐘の**聞こゆる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「聞こゆる」。余情・詠嘆の連体形止め。「聞こえることよ」の余韻。

Q3. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～ウのどれか。

夜ふけて鐘**聞こゆ**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「聞こゆ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q4. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

山里なむ寂しきまさり**ける**。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び。

Q5. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

秋の野の花の散り**ける**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の

連体形止め。

Q6. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

秋の野の花散りけり。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q7. 次の傍線部「し」は、ア～ウのどれか。

これや君の言ひし。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「や」があるので、文末は連体形「し」（過去「き」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q8. 次の傍線部「落つる」は、ア～ウのどれか。

昔を恋ふる涙の落つる。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「落つる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q9. 次の傍線部「落つ」は、ア～ウのどれか。

昔を恋ひて涙落つ。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「落つ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q10. 次の傍線部「近き」は、ア～ウのどれか。

いづれの山か天に近き。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「か」があるので、文末は連体形「近き」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q11. 次の傍線部「白き」は、ア～ウのどれか。

峰に立つ雲の白き。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が形容詞の連体形「白き」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q12. 次の傍線部「白し」は、ア～ウのどれか。

峰に立つ雲**白し**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「白し」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q13. 次の傍線部「くる」は、ア～ウのどれか。

人ぞ訪ね**くる**。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「くる」（カ変「来」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q14. 次の傍線部「くる」は、ア～ウのどれか。

待つ人の訪ね**くる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「くる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q15. 次の傍線部「く」は、ア～ウのどれか。

待つ人訪ね**く**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「く」（カ変「来」の終止形）。連体形止めではない。

Q16. 次の傍線部「隠るる」は、ア～ウのどれか。

月なむ雲に**隠るる**。 **答え：ア** **解説：**文中に係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「隠るる」で結ぶ。係り結び。

Q17. 次の傍線部「隠るる」は、ア～ウのどれか。

西の山に月の**隠るる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「隠るる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q18. 次の傍線部「隠る」は、ア～ウのどれか。

西の山に月**隠る**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「隠る」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q19. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

事ぞ成りぬる。 答え：ア 解説：文中に係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「ぬる」（完了「ぬ」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q20. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

年月のはや過ぎぬる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。余情・詠嘆の連体形止め。「過ぎてしまったことよ」の余韻。

【第2部】標準（Q21～Q50）

Q21. 次の傍線部「める」は、ア～ウのどれか。

雨ぞ降るめる。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「める」（推定「めり」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q22. 次の傍線部「める」は、ア～ウのどれか。

空くらくして雨の降るめる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「める」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q23. 次の傍線部「めり」は、ア～ウのどれか。

空くらくして雨降るめり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「めり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q24. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

都なむ恋しかりける。 答え：ア 解説：係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び。

Q25. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

旅の空に都の恋しかりける。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q26. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

旅の空に都恋しかりけり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q27. 次の傍線部「忘るる」は、ア～ウのどれか。

いつか忘るる。 答え：ア 解説：係助詞「か」があるので、文末は連体形「忘るる」で結ぶ。係り結び（反語）。

Q28. 次の傍線部「偲ぼるる」は、ア～ウのどれか。

昔の人の偲ぼるる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「偲ぼるる」（自発「る」の連体形）。余情・詠嘆の連体形止め。

Q29. 次の傍線部「偲ぼる」は、ア～ウのどれか。

昔の人偲ぼる。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「偲ぼる」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q30. 次の傍線部「たる」は、ア～ウのどれか。

花ぞ散りたる。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「たる」（完了「たり」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q31. 次の傍線部「たる」は、ア～ウのどれか。

庭の桜の散りたる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「たる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q32. 次の傍線部「たり」は、ア～ウのどれか。

庭の桜散りたり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「たり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q33. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

これなむ世に聞こゆる。 答え：ア 解説：係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「聞こゆる」で結ぶ。係り結び。

Q34. 次の傍線部「聞こゆる」は、ア～ウのどれか。

浦の波の音の聞こゆる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「聞こゆる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q35. 次の傍線部「聞こゆ」は、ア～ウのどれか。

浦の波の音聞こゆ。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「聞こゆ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q36. 次の傍線部「ゆく」は、ア～ウのどれか。

秋ぞ深くなりゆく。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「ゆく」で結ぶ。四段は終止と同形だが、係り結び。

Q37. 次の傍線部「暮るる」は、ア～ウのどれか。

秋の日のやうやう暮るる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「暮るる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q38. 次の傍線部「暮る」は、ア～ウのどれか。

秋の日やうやう暮る。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「暮る」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q39. 次の傍線部「まさる」は、ア～ウのどれか。

いづれか花の**まさる**。 **答え：ア** **解説：**係助詞「か」があるので、文末は連体形「まさる」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q40. 次の傍線部「優れたる」は、ア～ウのどれか。

軒の梅の香の**優れたる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「優れたる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q41. 次の傍線部「優れたり」は、ア～ウのどれか。

軒の梅の香**優れたり**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「優れたり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q42. 次の傍線部「はかなき」は、ア～ウのどれか。

世ぞ**はかなき**。 **答え：ア** **解説：**係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「はかなき」で結ぶ。係り結び。

Q43. 次の傍線部「はかなき」は、ア～ウのどれか。

うたかたの世の**はかなき**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が形容詞の連体形「はかなき」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q44. 次の傍線部「はかなし」は、ア～ウのどれか。

うたかたの世**はかなし**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「はかなし」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q45. 次の傍線部「つる」は、ア～ウのどれか。

鶯なむ鳴き初め**つる**。 **答え：ア** **解説：**係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「つる」（完了「つ」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q46. 次の傍線部「つる」は、ア～ウのどれか。

春浅く鶯の鳴き初め**つる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「つる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q47. 次の傍線部「つ」は、ア～ウのどれか。

春浅く鶯鳴き初め**つ**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「つ」（完了「つ」の終止形）。連体形止めではない。

Q48. 次の傍線部「出づる」は、ア～ウのどれか。

月ぞ山の端に**出づる**。 **答え：ア** **解説：**係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「出づる」で結ぶ。係り結び。

Q49. 次の傍線部「出づる」は、ア～ウのどれか。

夜やうやくふけて月の**出づる**。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「出づる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q50. 次の傍線部「出づ」は、ア～ウのどれか。

夜やうやくふけて月**出づ**。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「出づ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

【第3部】応用（Q51～Q80）

Q51. 次の傍線部「ざる」は、ア～ウのどれか。

いかでかこの世を厭は**ざる**。 **答え：ア** **解説：**係助詞「か」があるので、文末は連体形「ざる」（打消「ず」の連体形）で結ぶ。係り結び（反語）。

Q52. 次の傍線部「過ぐる」は、ア～ウのどれか。

はかなくて年の過ぐる。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「過ぐる」。余情・詠嘆の連体形止め。「過ぎてゆくことよ」の余韻。

Q53. 次の傍線部「過ぐ」は、ア～ウのどれか。

はかなくて年過ぐ。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「過ぐ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q54. 次の傍線部「流るる」は、ア～ウのどれか。

涙ぞ袖に流るる。 **答え：ア** **解説：**係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「流るる」で結ぶ。係り結び。

Q55. 次の傍線部「流るる」は、ア～ウのどれか。

袖の上に涙の流るる。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「流るる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q56. 次の傍線部「流る」は、ア～ウのどれか。

袖の上に涙流る。 **答え：ウ** **解説：**係助詞がなく、文末は終止形「流る」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q57. 次の傍線部「なる」は、ア～ウのどれか。

これやこの世の名残なる。 **答え：ア** **解説：**係助詞「や」があるので、文末は連体形「なる」（断定「なり」の連体形）で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q58. 次の傍線部「落つる」は、ア～ウのどれか。

別れを惜しむ涙の落つる。 **答え：イ** **解説：**係助詞がなく、文末が連体形「落つる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q59. 次の傍線部「落つ」は、ア～ウのどれか。

別れを惜しみて涙**落つ**。 **答え**：ウ **解説**：係助詞がなく、文末は終止形「落つ」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q60. 次の傍線部「ざる」は、ア～ウのどれか。

誰かは花を惜しま**ざる**。 **答え**：ア **解説**：係助詞「か（かは）」があるので、文末は連体形「ざる」で結ぶ。係り結び（反語）。

Q61. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

散る花を惜しむ心のあり**ける**。 **答え**：イ **解説**：係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q62. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

散る花を惜しむ心あり**けり**。 **答え**：ウ **解説**：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q63. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

月ぞくまなく照らし**ける**。 **答え**：ア **解説**：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び。

Q64. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

秋の夜の月の隈なく照らし**ける**。 **答え**：イ **解説**：係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q65. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

秋の夜の月隈なく照らし**けり**。 **答え**：ウ **解説**：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q66. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

人やむなしくなりぬる。 答え：ア 解説：係助詞「や」があるので、文末は連体形「ぬる」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q67. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

あへなくも人の亡くなりぬる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q68. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

あへなくも人は亡くなりぬ。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「ぬ」（完了「ぬ」の終止形）。連体形止めではない。

Q69. 次の傍線部「まさる」は、ア～ウのどれか。

いとど月ぞ澄みまさる。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「まさる」で結ぶ。四段は終止と同形だが、係り結び。

Q70. 次の傍線部「暮るる」は、ア～ウのどれか。

冬の日のとく暮るる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「暮るる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q71. 次の傍線部「暮る」は、ア～ウのどれか。

冬の日とく暮る。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「暮る」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q72. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

あはれとや鳥も鳴きぬる。 答え：ア 解説：係助詞「や」があるので、文末は連体形「ぬる」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q73. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

暁の鳥の鳴きぬる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q74. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

暁に鳥鳴きぬ。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「ぬ」（完了「ぬ」の終止形）。連体形止めではない。

Q75. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

いづれの春か忘れける。 答え：ア 解説：係助詞「か」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q76. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

過ぎし春の忘れける。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q77. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

過ぎし春忘れけり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q78. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

波の上にや舟は出でける。 答え：ア 解説：係助詞「や」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q79. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

沖つ波に舟の出でける。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ける」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q80. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

沖つ波に舟出でけり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

【第4部】入試 (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「劣れる」は、ア～ウのどれか。

いにしへや今に劣れる。 答え：ア 解説：係助詞「や」があるので、文末は連体形「劣れる」（存続「り」の連体形）で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q82. 次の傍線部「残れる」は、ア～ウのどれか。

世はうつろひて、昔の面影の残れる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「残れる」。余情・詠嘆の連体形止め。「残っていることよ」の余韻。

Q83. 次の傍線部「残れり」は、ア～ウのどれか。

世はうつろひて、昔の面影残れり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「残れり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q84. 次の傍線部「おどろかるる」は、ア～ウのどれか。

秋来ぬと、風の音にぞおどろかるる。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「おどろかるる」（自発「る」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q85. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

夜半の嵐に夢の破れぬる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q86. 次の傍線部「けり」は、ア～ウのどれか。

夜半の嵐に夢も破れにけり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「けり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q87. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

あはれや秋の暮れぬる。 答え：ア 解説：係助詞「や」があるので、文末は連体形「ぬる」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q88. 次の傍線部「早き」は、ア～ウのどれか。

もの思ふと過ぐる月日の早き。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が形容詞の連体形「早き」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q89. 次の傍線部「早し」は、ア～ウのどれか。

もの思ふほどに月日早し。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「早し」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q90. 次の傍線部「べき」は、ア～ウのどれか。

いづくにか身を隠すべき。 答え：ア 解説：係助詞「か」があるので、文末は連体形「べき」（推量「べし」の連体形）で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q91. 次の傍線部「深き」は、ア～ウのどれか。

世を厭ふ心のいとど深き。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が形容詞の連体形「深き」。余情・詠嘆の連体形止め。

Q92. 次の傍線部「深し」は、ア～ウのどれか。

世を厭ふ心のいとど深し。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「深し」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q93. 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。

契りぞ末の世までも変はらぬ。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「ぬ」（打消「ず」の連体形）で結ぶ。係り結び。

Q94. 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。

軒端の松の年経ぬる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。余情・詠嘆の連体形止め。「年を経たことよ」の余韻。

Q95. 次の傍線部「経たり」は、ア～ウのどれか。

軒端の松も年経たり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「経たり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q96. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

いかなる世にかまた逢ひ見ける。 答え：ア 解説：係助詞「か」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び（疑問）。

Q97. 次の傍線部「立ち添へる」は、ア～ウのどれか。

別れにし人の面影の立ち添へる。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「立ち添へる」（存続「り」の連体形）。余情・詠嘆の連体形止め。

Q98. 次の傍線部「立ち添へり」は、ア～ウのどれか。

別れにし人の面影立ち添へり。 答え：ウ 解説：係助詞がなく、文末は終止形「立ち添へり」。ふつうの言い切りで、連体形止めではない。

Q99. 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。

世のはかなき事を思ふに、涙のみぞこぼれける。 答え：ア 解説：係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。係り結び。

Q100. 次の傍線部「思ほゆる」は、ア～ウのどれか。

来し方行く末を思ひつづくるに、袖の濡るる秋の夕暮れの、いとどものあはれに**思ほゆる**。 答え：イ 解説：係助詞がなく、文末が連体形「思ほゆる」。余情・詠嘆の連体形止め。長い一文を連体形で結び、深い余韻を残す。

採点と振り返り

部	問題数	あなたの正答数
第1部 基礎	20	/20
第2部 標準	30	/30
第3部 応用	30	/30
第4部 入試	20	/20
合計	100	/100

まちがえた問題は、次の2点にもどって確認しましょう。

1. 文中に「ぞ・なむ・や・か」があるか。あれば、文末が連体形になるのは係り結びのため（ア）。係助詞を見落とさないこと。
2. 係助詞がなければ、文末語が連体形か終止形か。「ける・なる・める・たる・見ゆる・落つる」は連体形（イ＝余情・詠嘆）、「けり・なり・めり・たり・見ゆ・落つ」は終止形（ウ＝ふつうの言い切り）。

形の違いがカギです。「けり／ける」「なり／なる」「見ゆ／見ゆる」のペアを正確に覚えれば、係助詞のない連体形止め（余情・詠嘆）も自信を持って見抜けます。